

参天製薬株式会社

2005年3月期 中間決算説明会

2004年11月5日

(見通しに関する注意事項)

この資料は参天製薬の戦略、計画、業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。従って実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向など様々な要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

**2005年3月期中間期の業績概要、通期見通し
中期経営計画の進捗状況**

**取締役社長
森田 隆和**

2004年9月 中間期の業績概要

単位：億円、()内：対前期増減率

	2003年9月 中間期		2004年9月 中間期	
	実績		7月予想	実績
売上高	461	(0.6%)	451 (2.3%)	450 (2.3%)
営業利益	74	(+4.0%)	84 (+12.9%)	95 (+28.2%)
当期純利益	30	(+67.9%)	40 (+32.5%)	48 (+61.5%)

2005年3月期の業績見通し

単位：億円、()内：対前期増減率

	2004年3月期		2005年3月期	
	実績		7月予想	11月予想
売上高	898	(0.4%)	908 (+1.0%)	905 (+0.7%)
営業利益	145	(+14.4%)	160 (+10.2%)	167 (+15.0%)
当期純利益	63	(25.7%)	87 (+37.6%)	89 (+40.8%)
ROE	6.3%		-	8.5%

2003-2005 中期経営計画

	2003年3月期 実績	2004年3月期 実績	2005年3月期 予想	2006年3月期 目標
売上高	902億円	898億円	905億円	930億円
営業利益	126億円	145億円	167億円	180億円
当期純利益	85億円	63億円	89億円	100億円
株主資本利益率	8.8%	6.3%	8.5%	10.0%

基本方針

収益力の回復

研究開発力の強化

組織力の強化

重点課題

- 米国事業の早期収益化
- 費用削減の実施
- 国内収益基盤の維持・改善

- 新製品開発のスピードアップ
- 経営資源の重点配分による新薬候補化合物の充実

- コーポレート/ガバナンスの充実・強化
- 人材育成,組織マネジメント能力の向上

中期基本方針「収益力の回復」の進捗状況

	2004年3月期 実績	2005年3月期 予想	2006年3月期 計画
米国事業の早期収益化			
1.米国眼科薬	03/12販売提携	黒字化 (研開発控除前)	継続と改善
費用削減の実施			
2.製造原価	新容器本格導入	新容器へ切替え完了 製造プロセスの最適化	追加施策 検討/実施
3.営業オフィス改革 購買改革	主要オフィス移行 電子購買システム導入	全オフィス移行 対象品目の電子購買化 が進行中	全面的寄与 全面的寄与
業務サービス改革		改革策立案	改革策実施
国内収益基盤の維持・改善			
4.眼科事業リニューアル	MR活動支援システム 導入	眼科事業トライアル開始と 基盤改革	全面展開
5.薬粧事業		コスト構造分析と 改革策立案	コスト構造 改革策実施

注) サージカル事業は、MD-14眼内レンズ'販売マーケティング'計画を立案して、2006年3月期より実

中期基本方針「研究開発力の強化・組織力強化」の進捗状況

	<u>2004年3月期 実績</u>	<u>2005年3月期 予想</u>	<u>2006年3月期 計画</u>
研究開発力強化			
6.新製品開発のスピードアップ	臨床開発要員増強とプロセス改革 (緑内、角膜、抗リウマチ)	非臨床研究のスピードアップ (新方針策定済)	(優先プロジェクトは)臨床開発5年非臨床開発1.5年を達成
7.新薬開発候補の充実	有望なテーマに傾斜配分 眼科薬創薬機能を充実	次期臨床開発候補品の充実 (緑内、網膜、炎症)	充実目標を達成
組織力の強化			
8.企業統治機能の充実・強化	社外取締役の選任 取締役の任期を1年に短縮	継続	継続
9.人材育成・組織マネジメント力の向上	リーダー開発プログラム継続	継続	継続予定